

## サステナブル投資の世界的な広がり

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

グローバルレベルでサステナブル投資を広めるためにつくられた「世界持続的投資連合」(GSIA: The Global Sustainable Investment Alliance) は、世界のサステナブル投資に関する初の報告書となる「Global Sustainable Investment Review 2012」を発表しました。同報告書は、7つの地域<sup>1</sup>からの詳細なデータ分析による調査結果をまとめたもので、サステナブル投資が金融市場に変化をもたらす世界的なムーブメントとなっており、それぞれの地域固有の文化的、社会的、経済的な特徴を反映しているとしています。ここで言われているサステナブル投資とは、銘柄選定に ESG (E: 環境、S: 社会、G: ガバナンス) 要素を加味するなど、いわゆる社会的責任投資の範疇に入る投資手法を指します。同報告書では、スクリーニング、ESG 要因の統合、持続可能性に関するテーマ投資、インパクトインベストメント/コミュニティ投資、エンゲージメントと株主行動、などの手法を用いた投資も含めています。

これらのサステナブル投資額を合わせると、2011 年末<sup>2</sup>で調査地域における運用総額の 21.8%<sup>3</sup>にあたる約 13.6 兆ドル<sup>4</sup>に達し、世界的に大きな規模となっていることを示しています。そのうち最大規模のヨーロッパが 65%で、アメリカ、カナダを加えると 3 地域で 96%を占めます。その中で、日本はわずか 100 億ドルで世界の 0.1%に至っていません。さらに、総運用資産に占める ESG を考慮した投資比率は、ヨーロッパが 49%、カナダ 20.2%、アメリカ 11.2%に対し、日本は 0.2%とその差は歴然としています。

アフリカ諸国でも、ESG 投資への意欲が伸びているほか、韓国の国民年金、南アフリカの公務員年金基金などは、機関投資家として独自のサステナブル投資方針と実践を通じて、現地の投資環境に多大な影響を及ぼしているそうです。

このようなサステナブル投資の成長は、投資家の ESG 要因への関心の高まりによるものです。現在、70 億人の世界人口が 2050 年までに 90 億人に達すると見られており、エネルギーや水資源などの需要が劇的に増加することが予想されています。GSIA は、気候変動や水資源枯渇、人権などのような問題が、投資の長期的なパフォーマンスや持続可能性にとって重要なテーマとなり、ESG 要因が投資機会やリスクに影響を与えると見ています。

報告書では、日本が金融市場の長期停滞の影響を受け、サステナブル投資の規模も縮小した一方、日本労働組合総連合会（連合）による「ワーカーズキャピタル責任投資ガイド

<sup>1</sup> GSIA のメンバーであるヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、アジアの 5 地域のサステナブル投資フォーラムと、メンバーではないアフリカ、日本の 7 地域。

<sup>2</sup> オーストラリアとニュージーランドのデータは 2011 年 6 月末時点のもの。

<sup>3</sup> GSIA のメンバーによって報告された運用資産額 62.3 兆ドル。

<sup>4</sup> 株式、債券、ヘッジファンド、マイクロファイナンスなど全ての主要な資産区分を含む。

以上、すべて「Global Sustainable Investment Review 2012」を参照。

ライン」の発表や、「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」(21世紀金融行動原則)の策定などの進展が見られたことにも触れています。これらのイニシアチブが、日本におけるサステナブル投資のさらなる進展につながることを期待したいと思います。